

## 第69回 埼玉県美術展覧会審査評

### 【第3部 彫刻】

審査主任 ほりお ひでき  
堀尾 秀樹

第69回県展、本年度の彫刻部の出品点数は、昨年と変わらず113点でした。搬入された作品は、具象作品、抽象作品、どちらとも判断が難しいものなど様々でした。どれも作者の気持ちのこもった力作で、審査員一同、応募者の熱意を汲み、真剣に審査に臨みました。

彫刻部では近年の幅広い年齢層からの挑戦的な応募に期待を膨らませています。と、同時に作品を審査するにあたり、応募する方に再考して頂きたいと思うことがあります。

作品の応募はオリジナル作品が基本です。模倣性の高い作品や、既製品をそのまま使用したものなどが、毎年少なからずあります。ご自身の作品はどのような芸術であるのかを熟考の上、出品規定を守ってのご応募をお願い致します。

また、公募展に作品を出品するということは、人に作品を見せると同時に人に託す、という事でもあります。組み立て・設置・鑑賞に際し著しい困難や危険を伴わないよう、関係者や鑑賞者の安全に配慮の上、ご応募を願い致します。

制作の動機・表現方法・材質などは人により多種多様にありますが、彫刻という芸術を通じ、ともに埼玉県展彫刻部を盛り上げて参りましょう。

#### ・埼玉県知事賞

「ゲート(gate)」 あらき みのる  
荒木 実

黒御影石を用いた作品。磨かれた面と割り肌の面、複雑な形が寄り添うなど、見たものが「どうやって作ったのだろう」と疑問を抱くような面白さがあります。作者の意図的な造形と石の加工技術の高さがマッチし、重厚でセンスの良い作品となっています。

・埼玉県議会議長賞

もり どうひょう 「森の道標」      さいとう いさお 齋藤 勇男

森とそこに住む2羽のふくろうが、寄り添いながら、森の番人のように、まんまんな目をして下界を見下ろしている。

長い円柱の上に、発泡スチロールを原型とした森をわずかな曲面と、樹々の重なりを絵画的に表現し、長い円柱と森の面積の割合で、森を遠く感じさせ、童話のような楽しい世界となっています。

作品テーマや素材、構成等によって、これからの展開が期待されます。

・埼玉県教育委員会教育長賞

しよか ねいろ 「初夏の音色」      あべ まさよし 阿部 昌義

首に巻かれたスカーフが初夏の風にたなびく流れに乗って、美しい横笛の音色が聴こえてくるような、さわやかな雰囲気を持った優秀な作品だと思います。

樟の木の材質感を活かした部分と、木地を生かしながら淡く彩色された頭部の組み合わせの妙が感じられます。

また、作品の水平方向の流れと、ステンレスと鉄板でシンプルに制作された台座が垂直の方向性を感じさせ、その組み合わせのバランスの良さに、作者の技量の高さを感じさせます。

・埼玉県美術家協会賞

すいせいかいろう 「彗星回廊」      おかだ きょう 岡田 杏

彗星は天体の一種で、ほうきの形の尾を引き太陽などを焦点として楕円の双曲線を描きます。

作品はセメントの傾斜した台上にやや浮遊したテラコッタのボディで、鉄の翼が付いて、今、正にこれから太陽の周りの楕円の回廊を飛翔するかのように構成され、異質の素材を併用した宇宙空間を取り込んだ、感性豊かな作品です。

・埼玉県美術家協会賞

「想」 おも わづみ あきこ  
和澄 明子

顔を伏せ膝を抱えた姿は、深い思いを感じ見られ、私もつい回想してしまいました。力の抜けた自然体の中に凜とした意思が感じられる、良い作品だと思います。

・毎日新聞社賞

「友人」 ゆうじん おおむろ はるひと  
大室 悠人

左右対称の構造をもつ人体が、左右非対称に腰に手をあてたポーズをとることで表れる作用・反作用が、丁寧によく観察して作られています。高校生ながら、奇をてらうことなく誠実に人体を追及する姿勢と作り上げる力。今後のさらなる成長に期待しています。

・埼玉県美術家協会会長賞

「やすらぎの時」 とき いしづか いくえ  
石塚 郁江

くつろいで足をくずして座り、まどろむような表情の女性像。座ることで立像とは異なる魅力や難しさがあらわれますが、人体の構造をよく理解し、豊かで魅力ある肉付けがなされています。テラコッタ風の着色があたたかく優しい印象をひきだて、見る人をほっとさせるような作品に仕上がっています。

・高田誠記念賞

「古代の香り」 こだい かおり いそ ひろこ  
磯 廣子

静かに佇む座像です。単純化したフォルムで構築され、あどけない少女を彷彿とさせ、これから何かを待つような姿に感じられます。

白のコスチュームには金の縁取りがあり、古代の衣裳を想定した香気の間接的に感じられる静謐な作品です。